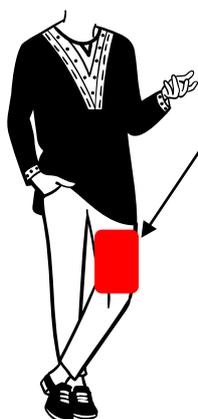
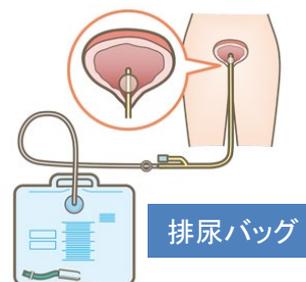


## テーマ：目立ちにくい外出用排尿バッグ

### ■ 背景

神経因性膀胱、前立腺肥大症、膀胱がんの手術後などの疾患では、自力での排尿コントロールが困難になるケースがある。その際、膀胱に挿入した「尿道カテーテル」を「排尿バッグ」につなぎ、尿を溜める管理が必要となります。

外出の際は、主に「レッグバッグ」が使用されている。ベルトを使用して、ズボンの下の太ももやふくらはぎに直接バッグを固定する。例えば下記の様にして、患者はバッグを装着している事を周囲に気づかれにくいよう工夫をしている。ショルダーバッグの中に排尿バッグを入れてる患者もいる。



畜尿用レッグ  
バッグ

- ゆったり目のズボンやジャージを使う
- バッグの形をぼかせる生地のズボン
- 冬場なら長めの上着で隠す
- 歩き方を工夫する



ショルダー  
バッグ

- カテーテルに繋がる排尿バッグをカバンの中に入れる

### ■ 課題

市販品では例えば、下記の課題があげられる  
(レッグバッグ)

- ・バッグが膨らむとどうしても目立つので、外出中は可能な範囲でこまめに排液する必要がある。
- ・尿量を知らせる機能がないため、小まめに尿量の確認が必要である
- ・脚部にバッグを固定していると、排液の際に手間がかかる

(ショルダーバッグ)

- ・歩行時、ちゃぽちゃぽ音がすることがある。
- ・尿の逆流を防止するために、ショルダータイプでは膀胱より下の位置にバッグを持ってくる必要があるため、位置が不自然になってしまう
- ・尿が溢れた際に匂いが漏れる、清掃に手間がかかる

### ■ 市場性

尿道カテーテルは急性期病棟から慢性期病院へ転院した患者の14%(日本慢性期医療協会)、訪問看護利用者の約10%~15%、特別養護老人ホーム入所者の約7%~10%(日本臨床泌尿器科医会などの学術調査)で留置されており、日本全体では20~30万人と推定される。社会の高齢化に伴い前立腺肥大や膀胱がんの患者数増加し、外観に優れるレッグバッグなどの商品市場は拡大していくと予想される。

### ■ 泌尿器科学講座のホームページ

[https://sumsuro.jp/wp\\_sumsuro/](https://sumsuro.jp/wp_sumsuro/)